



学校だより

(12月号) 令和4年11月30日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 手洗い うがいをしっかりしよう

絆

～ 家族・地域のつながり ～

校長 白石 徳一郎

木々も葉を落とし、冬の装いとなりました。学校でも暖房を入れての授業となります。

11月12日(土)は、2,3校時が学校公開、午後はPTAのしびらきっ子まつり、夜は青少年育成会新開地区会による花火大会でした。しびらきっ子まつりは、受付名簿を見ると85%の児童が参加しました。



新開小校庭で打ち上げ花火を見上げる、児童、保護者、地域の皆様

花火大会は今年で22回目とのことで、桜区区長様をはじめ、多数のご来賓の皆様にお越しいただき、盛大に催されました。まさに、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てていくというコミュニティ・スクールにふさわしい学校・PTA・青少年育成会の

行事が連続した一日となりました。子ども達のために、何か月も前から打ち合わせや準備を重ねてきてくださいましたPTA役員の皆様、青少年育成会の皆様、ありがとうございました。二十数年前から続いている花火大会は、児童、保護者の皆様、地域の皆様にとりましても、楽しい地域の一大イベントであることと存じます。コロナ禍で約3年間、黙食や密を避けるといった新しい生活様式になり、様々な集会や行事が中止・縮小され、社会全体で人間関係の希薄化が進みつつあったように思います。行事を通して、皆様が顔を合わせ、会話をしたり、共に楽しんだりすることで人間関係が円滑になり、地域の絆も育まれていくことを改めて感じることができました。

11月20日(日)は内閣府が定めた「家族の日」でした。内閣府では、平成19年度から、11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、家族や地域のつながり、子どもを育てていく大切さについて、みんなで考えていくことを呼びかけています。家族で過ごす時間を大切に、家族と一緒に過ごせる幸せを感じたり、家族へ感謝の気持ちをもてたりできるといいと思います。

6年生の道徳で、横田めぐみさんのご家族に視点をあてた「家族のきずな」を主題とした授業を行いました。めぐみさんが拉致をされて、とてもとても長い年月が経ちました。ご両親がずっと署名活動や講演会を続けてこられたことをお伝えし、「どうして45年間もあきらめないで続けられるのでしょうか?」と問いかけました。子ども達は「大切な子どもだから」「もう一度、会いたいから」など、家族のきずなに迫ることができました。多くの拉致被害者の方々は今もなお、生きていて、帰国できる日を待ち望んでいらっしゃることを私たちは決して忘れてはなりません。児童の感想の一部を紹介いたします。



横田めぐみさん
出典:「新潟日報社・
祈り-忘れるな拉致-」

- ・ぼくは家族がないというのは、すごくさびしいと思いました。こんなことを思ったのは初めてです。この授業で45年間も思っていたのはすごいと思ったし、少しでもこの活動に参加したいと思いました。
- ・家族がとても大切だと分かりました。これからは家族を大切にして暮らしていきたいし、横田めぐみさんのため、拉致された人のために何かしてあげたいと思いました。
- ・だれだって、大切な人がいなくなってしまうたら、とても悲しいです。一緒に生活できることが、どれだけ大事なことが分かりました。これからは一日一日を大切にして、家族と生活していきたいです。

12月は人権週間(4~10日)、世界人権デー(10日)、北朝鮮人権侵害問題啓発週間(10~16日)などがあります。拉致問題の一日も早い解決と、すべての拉致被害者の方の帰国を切にお祈りしております。めぐみさんは下校時に拉致をされました。本校の児童が安全に下校できるのは、長年、見守りをしてくださっている地域の防犯ボランティアの方々のお陰です。多くの方々のつながりの中で、子ども達が健やかに成長できますことに改めて感謝申し上げます。